東京都写真美術館年報
2015-2016
TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／ 2015-16

Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2015-16

はじめに

東京都写真美術館は、東京都が施工する経年劣化した施設・設備を更新するとともにお客さまへのさらなるサービス向上を目的とした大規模改修工事のため、平成26年秋から休館に入りました。

このため、平成27年度の展覧会は、収蔵展、自主企画展ともに開催を見合わせましたが、代わって、休館中ならではの作品管理業務や周年史の編纂、リニューアル・オープンに向けた記念展覧会の準備などに注力したほか、恵比寿ガーデンプレイス、日仏会館など近隣施設と地域の協力を得て「第8回恵比寿映像祭」を2月に開催しました。このフェスティヴァルでは、「動いている庭」を総合テーマとして、国内外の作家、ゲストによる映像作品の展示、上映などさまざまなプログラムを実施しました。

写真美術館の基盤をなす作品収集におきましては、東京都をはじめ当館の支援会員である企業、団体、作家のみなさまのご協力により、厳選した質の高い作品、歴史的にも貴重な作品1,805点を、新たなコレクションとして加えることができました。

教育・普及の分野では、休館中でも学校と連携したスクール・プログラムや初心者から上級者までを対象とした当館ならではのワークショップを出前講座として館外の都内各所で開催し、写真や映像を通じて豊かな学習の場を提供してまいりました。また、人材育成にも力を入れ、海外からのインターンを受け入れました。

定性目標では、平成28年秋のリニューアル・オープンに向けて、「『写真美術館らしさ』とは何か?」というコンセプトの下、総合開館20周年記念展覧会の開催準備、東京都が実施する展示室などの改修工事への協力、新たなシンボルマーク・ロゴの制定準備などに取り組んでまいりました。

このほか、東日本大震災により被災した資料をクリーニングし、デジタル化して未来に継承する「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト」に引き続き協力し、渋谷・恵比寿・原宿の文化施設が集う「あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会」の活動では、同地域の文化施設の魅力向上に寄与してまいりました。

将来的なビジョンとしては、東京都が策定した「東京文化ビジョン」、また、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を視野に入れ、今後の写真美術館の運営指針となるニュー・ビジョンを定め、今後進むべき方向を明らかにしたところです。

平成28年度は、秋のリニューアル・オープンを機に新たな歩みをスタートし、これまで以上により多くのお客様にご来館いただけるよう、誰もが入ってみたくなるような親しみやすい美術館となるよう精力的に取り組んでまいります。

本書が、みなさまにとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成27年度事業

東京都写真美術館の基本的性格・・・・・・・・・・・・・・ 5
東京都写真美術館の事業内容・・・・・・・・・・・・・・ 6
東京都写真美術館の戦略的運営・・・・・・・・・・・・・ 7
展覧会事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
作品資料収集／作品収集実積・・・・・・・・・・・・・・24
平成27年度収蔵作品の紹介・・・・・・・・・・・・・・27
調査研究・普及活動（個人）・・・・・・・・・・・・・・32
広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
保存科学研究室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
図書室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
支援会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
カフェ／ミュージアムショップ・・・・・・・・・・・・・46
数字からみた写真美術館・・・・・・・・・・・・・・・・47
条例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
施行規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
開館の経緯／組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
平面図／施設面積／建物概要／設備概要・・・・・・・・・57
利用案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」*を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

a　写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。

b　写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。

c　写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。

d　写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。

e　日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。

f　ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。

g　歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

（平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より）

＊なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。

東京都写真美術館の事業内容

1. **展覧会事業**
   3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約3万点以上の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. **教育普及事業**
   講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. **作品資料収集**
   収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. **調査研究**
   国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. **広報事業**
   展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. **情報システム**
   収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. **保存科学研究室**
   展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. **図書室**
   図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. **実験劇場**
   1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. **支援会員**
    写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。

東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日　　東京都写真美術館館長
福原　義春

**「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、
センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」**

＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞
貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子供や若者達に積極的に文化発信を行います。

＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞
社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞
美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞
国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

＜開かれた美術館＞
来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

東京都写真美術館ニュー･ビジョン

「東京都写真美術館は、写真･映像分野の世界のトップ美術館を目指します。」

写真・映像を通して、世界と行き交う、世代が行き交う、互いの違いを受け入れあう、そんな未来型美術館を目指します。

1 世界有数の写真･映像コレクションの構築と、世界への発信

○国際ネットワークの構築
世界の関係機関との信頼関係を築き、ネットワークを強化し、国際シンポジウムの開催、海外への企画展・収蔵展の巡回、共同企画、ワークショップ等の開催を促し、世界に向けて日本の写真･映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。

○画像WEB公開など情報システムの充実
写真美術館の所蔵作品の画像ＷＥＢ公開等の取組を強化し、都民をはじめ世界中の人々に広く発信する。

○情報発信力の強化
ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、海外メディア･ネットワークを広げ、美術館における複数言語対応など、国際化広報スキームを構築し、国際発進力を高める。多彩な手段による新たな発想の広報活動を展開し、アウトリーチを高めていく。

2 写真･映像の可能性に挑戦する新進作家の支援

○日本の次世代を代表する旬の作家の個展や新進作家展の開催
様々な価値観や世代が交流するきっかけとするため、一過性ではなく、持続可能な文化的事業として位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。また、作家が展覧会を契機に世界進出できるようなシステムの構築を目指す。

3 来館者につねに感動を与える美術館

○話題の国際展の開催
現在最も世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、国際都市東京をアピールし、優れた写真･映像の鑑賞機会を提供する。

○実験劇場の刷新
写真･映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨きさらなる魅力を高める。

4 来館者の立場に立った開かれた美術館

○文化施設連携事業・地域連携の強化「あ・ら・かるちゃー渋谷･恵比寿･原宿＜文化施設運営協議会＞」
魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、地域社会に活力を与えると共に地域の新たな原動力となるグループの創造を促す。

○スクール・プログラム等の学校との連携、ボランティアとの協働、あらゆる人が享受できる多彩なワークショップ
次世代を担う児童･生徒の可能性を引き出すと共に、子供から上級者まで様々なニーズを充たす、より魅力的なワークショップを人々に提供する。

○支援会員制度の強化
企業･団体との協力をより強化する。また、友の会の一層の充実を図る。

5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティヴァルの実施

○「恵比寿映像祭」のヴァージョン･アップ
7回にわたり実施してきた国際フェスティヴァル「恵比寿映像祭」の国際発信力に磨きをかける。
国内外の先端的なアーティストを招集すると共に、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げ、展示、上映、ライヴ・イヴェント、講演、トーク・セッションなどを複合的に実施する。
映像分野における創造活動の活性化を図り、優れた映像表現を、過去から現在、未来へと継承し、異なるジャンルの対話を促す場とする。

6 未来に向けた文化の継承

○適切な作品収集、管理、保存による貴重な作品の次世代への継承
計画的な収集、保存科学の研究に基づいた最適な作品管理によって、都民の貴重な財産である作品･資料を、次世代に継承する。

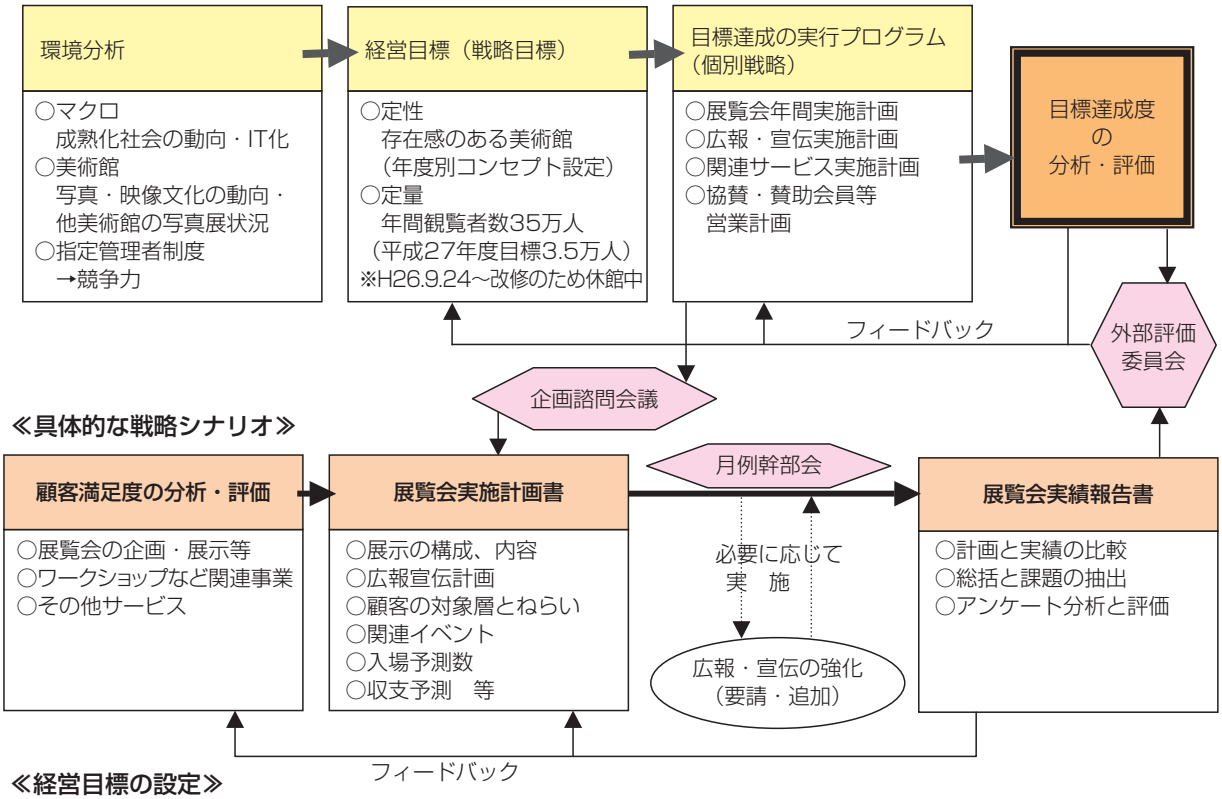
○外部収蔵庫･施設の確保･運営
作品の大型化･デジタル化により、全作品の美術館内収蔵が困難であることから、外部施設を確保し、貴重な作品を次世代に継承する。

○ここに来れば世界中の写真集が見られる、世界一の図書室
写真･映像の専門図書室として、写真･映像に関するすべての資料が揃う、一般の人から専門家までが満足するワン･アンド･オンリーの図書室を目指す。

制定年月日：平成27年3月2日

東京都写真美術館における戦略的運営システム

東京都写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



≪経営目標の設定≫

定　性　目　標　　「存在感のある」美術館運営

とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。
○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術･音楽･映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

年度別コンセプト

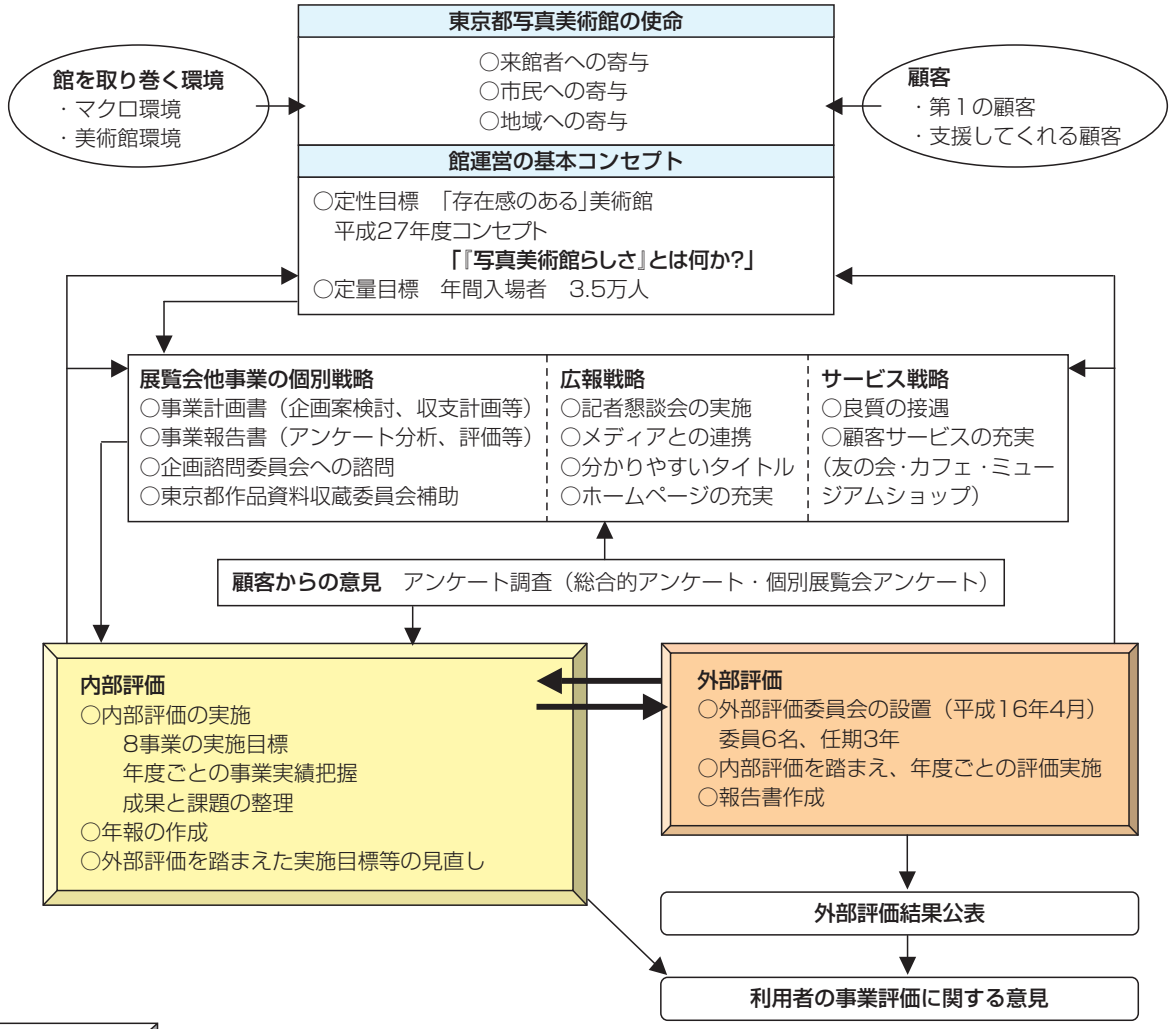
平成13年度	「静かな賑わい」
平成14年度	「写真(映像)とは何かを伝える」
平成15年度	「感動を与える」
平成16年度	「明るく迎える美術館」
平成17年度	「信頼される美術館」
平成18年度	「判りやすく説明する美術館」
平成19年度	「対話する美術館」
平成20年度	「顔が見える美術館」
平成21年度	「交流を広げ、つながりを強める美術館」
平成22年度	「お客様のニーズにチャレンジ！」
平成23年度	「広報マインドと実践」
平成24年度	「発信、写美から世界へ」
平成25年度	「楽しみ方いろいろ美術館」
平成26年度	「未来を創造する美術館づくり」
平成27年度	「『写真美術館らしさ』とは何か?」

定　量　目　標　　年間入館者　38万人超

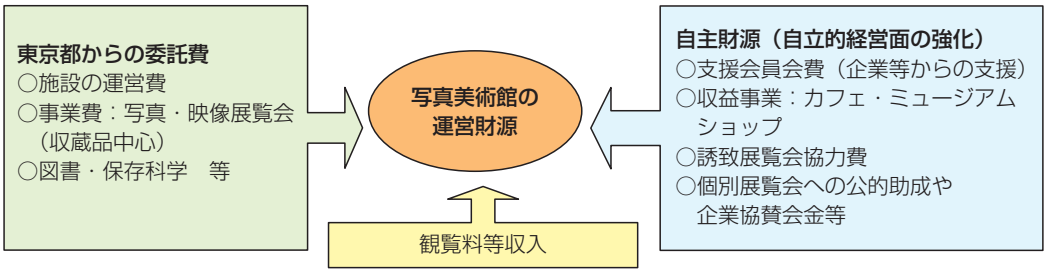
平成13年度	227,183人	（前年度比	1.04倍）
平成14年度	364,307人	（〃	1.6倍）
平成15年度	413,289人	（〃	1.1倍）
平成16年度	431,521人	（〃	1.04倍）
平成17年度	441,705人	（〃	1.02倍）
平成18年度	443,107人	（〃	1.01倍）
平成19年度	365,871人	（〃	0.83倍）
平成20年度	415,456人	（〃	1.14倍）
平成21年度	428,514人	（前年度比	1.03倍）
平成22年度	427,223人	（〃	0.99倍）
平成23年度	429,657人	（〃	1.01倍）
平成24年度	407,382人	（〃	0.95倍）
平成25年度	404,256人	（〃	0.99倍）
平成26年度	238,844人	（〃	0.59倍）
平成27年度	38,497人	（前年度比0.16倍）	

※大規模改修工事のためH26.9.24から休館中

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成27年度　コンセプトと取組み

東京都写真美術館の中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成27年度の年度コンセプトとして、「『写真美術館らしさ』とは何か?」を設定した。

「『写真美術館らしさ』とは何か?」

展覧会、教育普及事業をはじめとして、写真・映像の魅力をさまざまな形で発信する写真美術館の活動を広く普及するほか、大規模改修工事を進めていくなかで、東京都から１階ロビー・エントランスの壁・床材のカラースキームや展示室内の照明機器の選定などについて相談を受けたことから、写真美術館の立場から、その考え方等の情報提供を行うなど協力する取組みを行った。

◆　展覧会
- ・大規模改修工事のための休館に伴い、展覧会事業は休止
- ・「第8回恵比寿映像祭 動いている庭」を近隣施設で開催
- ・リニューアル・オープン　総合開館20周年記念展覧会として、12本の展覧会（5本の自主企画展、6本の収蔵展、1本の映像展）の準備を進めた。
- ・休館中の誘致展開催への協力

◆　作品収集

平成27年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会を経て、1,805点の作品を収集した。
収蔵作品合計33,393点（平成28年3月31日時点）

◆　作品管理
- ・大規模改修工事に伴う外部収蔵庫運営
- ・既収集作品の著作権処理や作品データの整備
- ・大規模改修工事に伴う作品環境保全の対応
- ・改修終了後の作品移送準備

◆　教育普及事業
- ・アウトリーチ活動の実施（次世代の写真映像文化を担うこどもたちへの出張授業を展開）
- ・定番の教育普及プログラムや過去の実績を紹介した『東京都写真美術館 教育普及プログラム記録集』の発行

◆　恵比寿映像祭
- ・大規模改修中に伴い、近隣施設を開催場所とし、各施設、地域と連携強化を図った。
- ・さまざまな方法による映像表現の紹介（展示、上映、ライブ・イヴェント、シンポジウム、レクチャー等）

◆　図書室
- ・一般利用者のない休館時期を活用し、遡及作業などの書誌データの充実を図り、写真・映像の専門図書室としての役割を果たす基盤作りを行った。
- ・改修後の移転、再開に向け、利用しやすさ、快適さを実現するため、様々な準備に取り組んだ。
- ・外部倉庫とリニューアル準備室間で業務用図書の定期便を運用し、館学芸員や外部研究者の調査研究に活用した。

◆　支援会員向けイベント
- ・支援会員向けに企業交流会を実施

◆　広報活動
- ・展覧会告知と休館告知の両面から、積極的な広報の展開
- ・作品紹介や学芸員の連載記事、教育普及事業の紹介など、休館中の活動をアピールし、未来の写真美術館への期待感を演出
- ・新シンボルマーク・ロゴタイプの制作、周年史の編纂、ホームページの改修

◆　その他
- ・総合開館20周年記念事業の準備
- ・次代を担う人材の育成（ヒルデスハイム大学からの研究研修生の受入）
- ・リニューアル・オープン後の国際展準備

平成27年度　会議実績

企画諮問会議

座長　建畠　哲　多摩美術大学学長
副座長　林　道郎　上智大学国際教養学部教授
　倉石　信乃　明治大学大学院理工学研究科教授
　蔵屋　美香　東京国立近代美術館美術課長
　岸　桂子　毎日新聞大阪本社学芸部副部長
　神谷　幸江　広島市現代美術館学芸担当課長
　浅葉　克己　アート・ディレクター

開催日　平成27年11月30日(月)
議　題　平成26年度実績及び平成27年度活動方針・平成31年度展覧会企画提案について
　第8回恵比寿映像祭について
　平成31年度以降の展覧会の考え方

外部評価委員会

座長　樺山　紘一　印刷博物館館長
副座長　鈴木杜幾子　明治学院大学名誉教授（文学部芸術学科）
　三浦　篤　東京大学大学院総合文化研究科教授
　清水　真砂　世田谷美術館学芸部長
　小川　敦生　多摩美術大学美術学部芸術学科教授
　（元日本経済新聞社文化部記者）
　矢野　富子　東京都写真美術館ボランティア

第1回外部評価委員会
開催日　平成27年4月17日(金)
議　題　外部評価方法の確認及び平成26年度事業の実績報告

第2回外部評価委員会
開催日　平成27年5月27日(水)
議　題　平成26年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

【収集部会】
委員長　高階　秀爾　大原美術館館長
　岡野　晃子　IZU PHOTO MUSEUM館長
　香川　檀　武蔵大学人文学部教授
　椹木　野衣　多摩美術大学美術学部教授
　竹内万里子　京都造形芸術大学准教授
　田中　正之　武蔵野美術大学教授
【評価部会】
和光　清　ワコウ・ワークス・オブ・アート代表取締役
松永真太郎　横浜美術館学芸員
南　雄介　国立新美術館副館長・学芸課長
荒木　夏実　森美術館キュレーター
矢野　進　世田谷美術館学芸部美術担当課長
飯田志保子　東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授
高橋　朗　フォト・ギャラリー・インターナショナルディレクター
石田　克哉　MEMディレクター

開催日　平成27年10月22日(木)
議　題　平成27年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

記者懇談会
開催日　平成28年1月14日(木)
議　題　平成26年度外部評価報告、平成27年度事業実績・休館中の実績、平成28年度運営方針
　リニューアル・オープンおよび総合開館20周年記念事業の概要
　第8回恵比寿映像祭概要
　平成27年度新規収蔵作品

平成27年度　トピックス

4月17日　第1回外部評価委員会
　　外部評価方法の確認及び平成26年度事業実績報告
5月27日　第2回外部評価委員会
　　平成26年度事業全部門総括と最終評定を討議
6月10日　写真映像文化振興支援協議会
　　「支援会員向け企業交流会」
　　於：竹中工務店
7月7日　写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
　　平成26年度の事業実績報告・懇親会の実施
　　於：東京芸術劇場
10月16日　写真映像文化振興支援協議会
　　「支援会員向け企業交流会」
　　於：資生堂企業資料館ほか
10月22日　作品資料収蔵委員会
　　平成27年度新規収蔵作品の選定
11月30日　企画諮問会議
　　平成26年度実績及び平成27年度活動方針について
　　リニューアル以降の展覧会事業について
1月14日　記者懇談会
　　平成26・27年度事業実績・休館中の活動
　　平成28年度運営方針説明　ほか